

# 短い夏休みにできること



「学習の取り組み方を身につける」を実現できるようにしたいと考えました。科目ごとに何かをできるようにするということも考えたのですが、今の生徒たちに最も足りない部分が「何を考えれば、正解にできるのか?」を考えることだつたのです。そして、それを考えられるようになれば、どの科目でも必ず必要な部分なので、より効果的に作用することだと考えたからです。実は、コロナ禍の中で、学校の授業がない状況で生徒たちに個別で授業を行なつていた際に、ある生徒が「学校で教わるよりも、こ<sup>うして個別で教わつた方が</sup>よく分かるし、このままの方が良いんだけど」というような発言をしたのです。恐らく、学校の授業では「分かる」よりもまず「進める」ということが先になつているので

夏休みを迎えると毎回考  
えることですが、今年はより  
一層、この短い期間にどうい  
うことを行なうか？を考えさせられました。  
そして、今年の夏の大きな目

をした生徒たちが自ら発信するようになる」といふこと。100%の生徒がそうかと云ふと、恐らくそうではないと思うが、生徒の個性・特性を見極めて、地方へ留学させた場合には、その確率は格段に上がると思う。そういうではなく、「都會の高校では学力や競争率が高く、思つた学校にいけないから、地方で合格できる高校に行きたい」というような考え方はなしに

先日、「地域みらい留学オンラインフェスタ」というのに参加してみた。「地域みらい留学」に何かしらのところで携わって感じることは、「地方留学

# 地域留学が狙うもの

はないかと思うのです。  
そういう部分に対応する  
意味でも、この短い夏休  
みの間に「教科ごとの正  
しい学習の取り組み方を  
身につけ」られるようなな  
授業を提供したいと考え  
ています。

したほうが良い。そういう意味で言えば、生徒たち自身の積極的な気持ちが非常に大事ではないかと思う。今年はコロナの影響で、東京の学校の授業が極端に減つてしまつたことにより、一層逆の意味での「地方との格差」という部分が強調されたようを感じる。これまで伝えてきたように、学校での教師と生徒の比率は圧倒的に地方の方が厚いのだから、授業数まで減つてしまえば、地方が有利なのは決定的だ。しかし、地方留学で身につけられる本当に大切なことは、文頭で書いたような「自ら発信する力」なのではないかと思う。文部科学省が、普通科では今の時代に対応できないため、それを3つに再編しようと動き始めている時点で、地方留学は、それを先取りするような結果を出していると思う。普通科の再編を待つよりも、まずは地方留学を選択肢に入れてみてはどうだろうか？

## 生徒の珍発言!?

生徒A「生徒A、またお母さんに笑われた  
生徒A「うん、「寝具店」を『ねぐてん』で読  
先生「ま、ある意味お前らしいけど（笑）

中学3年生の2学期の期末試験というのには、昔から中学3年生にとつて大切なものがだつたのだが、担任の生徒だつたコットンが、その試験の前から突然教室に来なくなってしまった。それまでには無遅刻無欠席で、成績もほぼオール5という状況で、この期末試験を無難に乗り切ることが出来れば、受験にもかなり有利だという試験だつたのに…。やマダイ先生に直接訊ねてみると、すごく神妙な顔をして「あの子のお母さんが亡くなつたんだ：」とのことだつた。少し前から、何となくではあつたのだが、お母さんの調子が悪いようなことは聞いていたが、まさかそこまで思つていなかつた。かと言つて、こちらも1アルバイトの身分でやれることなど多寡が知れており、出来た

のは本人の精神状況のことと心配するのみ。結局、コットンは？学期の期末試験を受けないまま、試験は終わる。「仮内申」が出る時期になつた。ヤマダイ先生もオレも、気が氣ではない状況ではあつたが、本人が再び教室に来ることが出来るようになるまでは、こちらから積極的に関わるのはやめておいた。

ところが、次の週になると、コットンが何もなかつたかのように教室にやつてきてくれたのだつた。イガスのみんなは、何もなかつたかのように今まで通りの対応を出来たと思う。今でもあの時の教室の対応は素晴らしかつたと思う。その上、コットンの2学期の成績は、期末試験を受けなかつたにもかかわらず1ポイント上がつていた。ここは色々言い分もあるだろうが、コットンの受験はこれからが正念場なのだつた。

お絵かきを  
Tシャツにできます!  
画伯の新作  
お待ち  
してます

山東